

調和体を書く(11)

締切り 十一月二十四日(必着)

茶室は簡素  
にしく俗と  
離れたい

奥村憲照先生書

回作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 B半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり書」の三つがあります。

◆現代日本の文章表現は全て漢字かな交じり書ですが、ここでは芸術的創作作品を指し、「調和体」「近代詩文」として書展の一部門を占めています。

◆読める書として人気を高めています。が、古典といわれるものがない故に書法はまだ確立しておらず、各団体で新和様・新書芸などのいろいろな呼称で研究が進められています。

◆今回のお手本は、前会長奥村憲照先生が(財)日本書道教育学会に關係していた頃の<sup>しんわよう</sup>新和様のお手本です。本誌初登場です。

◆読めてかつ、書格の高い作品を目指して研究してまいります。

〔読み〕

茶室は簡素にして俗を離れている

〔解説〕

①可読性を大切に。

②変体仮名・連綿はなるべく控える。

③構成を工夫してみよう。

※落款(署名・捺印)は、作品の一部としてバランスよく収めて下さい。

※印のない方は赤ペンで□を書き入れて下さい。

準初段から六段まで

新入から1級まで

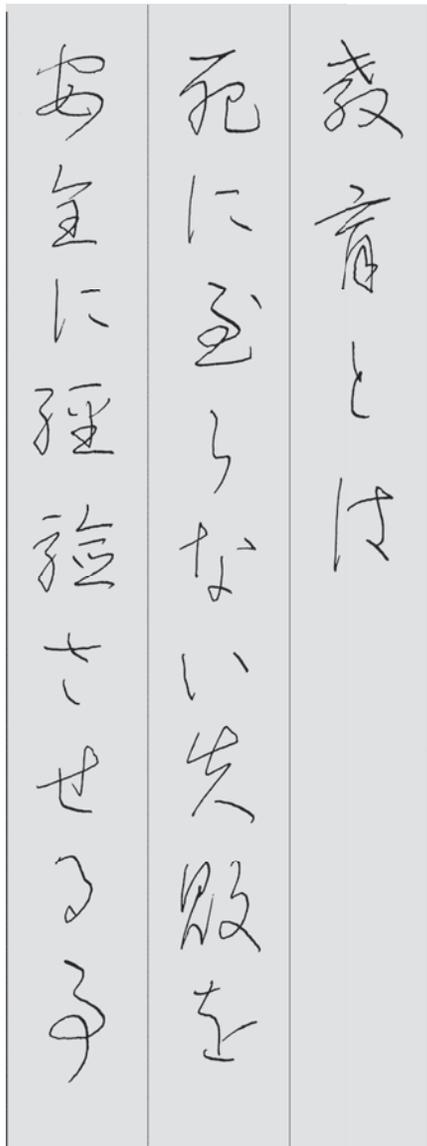
〔解説〕

〔解説〕

〔読み〕教育とは 死に至らない失敗を 安全に経験させる事



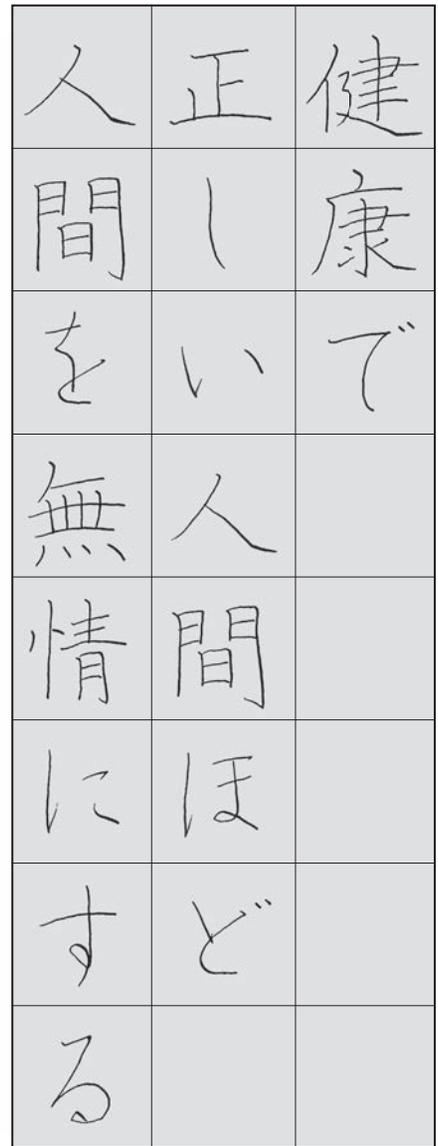
▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。  
 ◎今月は草書です。草書のくずし方は古来からの定形があり、定形以外のくずし字は通用しません。特に草書は字典二・三冊を参考にして文字を選んでいきます。



おか だ りゅう ほう 書  
 岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙



おお たに せい じょう 書  
 大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

- ◆12月課題予告(楷書)  
人間とは  
必要に迫られない  
限り善を行わない
- ▼教範・書範Ⅱ行草または草書
- ▼師範Ⅱ行書

★教育とは：(書体Ⅱ行草または草書)  
 植松努(二六六)  
 下町ロケット開発の実在人物  
 教育は、失敗や責任の避け方を教えるものではなく、失敗した時の対応の仕方、乗り越え方を教えるものです。失敗は許されないという空気が、結果として「誰の責任なのかわからないシステム」を作り上げてしまうと、この町工場の経営者は言っています。

◆12月課題予告(行書)  
 決断に後悔なく  
 悔しさには  
 落ち着きを

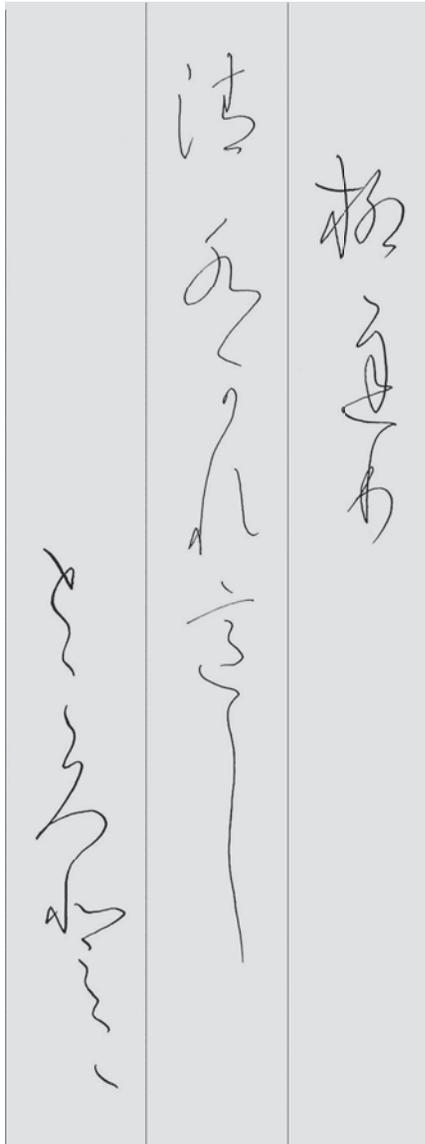
★健康で：(書体Ⅱ楷書)  
 金子光晴(二六五～二七五)  
 愛知県津島市生まれの詩人  
 健康で挫折も知らずに真っすぐに生きてきた人は、そうでない人の痛みや苦しみ、悲しみがわかりません。  
 一見すると正しいことをしたり言ったりしているようでも、実は残酷なことである場合が少なくありません。常に相手を思いやる心が大切でしょう。

# 一般部かな課題

締切り 11月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで



遅利  
柳  
ちり  
清水  
かれ  
石  
と  
こ  
ろ  
ど  
こ  
登

やな支干  
柳  
ちり  
清水  
かれ  
石  
と  
こ  
ろ  
ど  
こ  
いし東

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

	清	
	水	
	う	や
東	れ	な
こ	い	ま
ろ	し	千
や		り
こ		

た なか き こう 書  
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

た なか き こう 書  
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

## ◆12月課題予告

宿かさぬ燈影や雪の家つゞき

(与謝蕪村)

【解説】「〜」の「と」と「こ」の最後は欠落させ「と〜」と書かずに「〜」と書くこと滑らかで美しい。

登と 東と 意い 遅ち 支き  
 登 東 意 遅 支  
 登 東 意 遅 支  
 登 東 意 遅 支

## 【古筆参考】

【句解】柳の枯れ葉は、散って道のべの清水も涸れて、川床にはとこどころに露出した岩石が、秋の薄日を受けている。

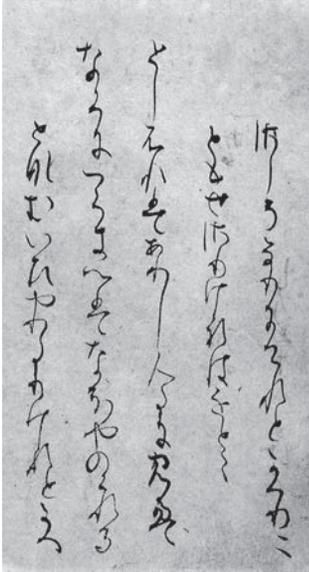
柳ちり清水かれ石とこどこ  
 (与謝蕪村)

締切り 十一月二十四日(必着)

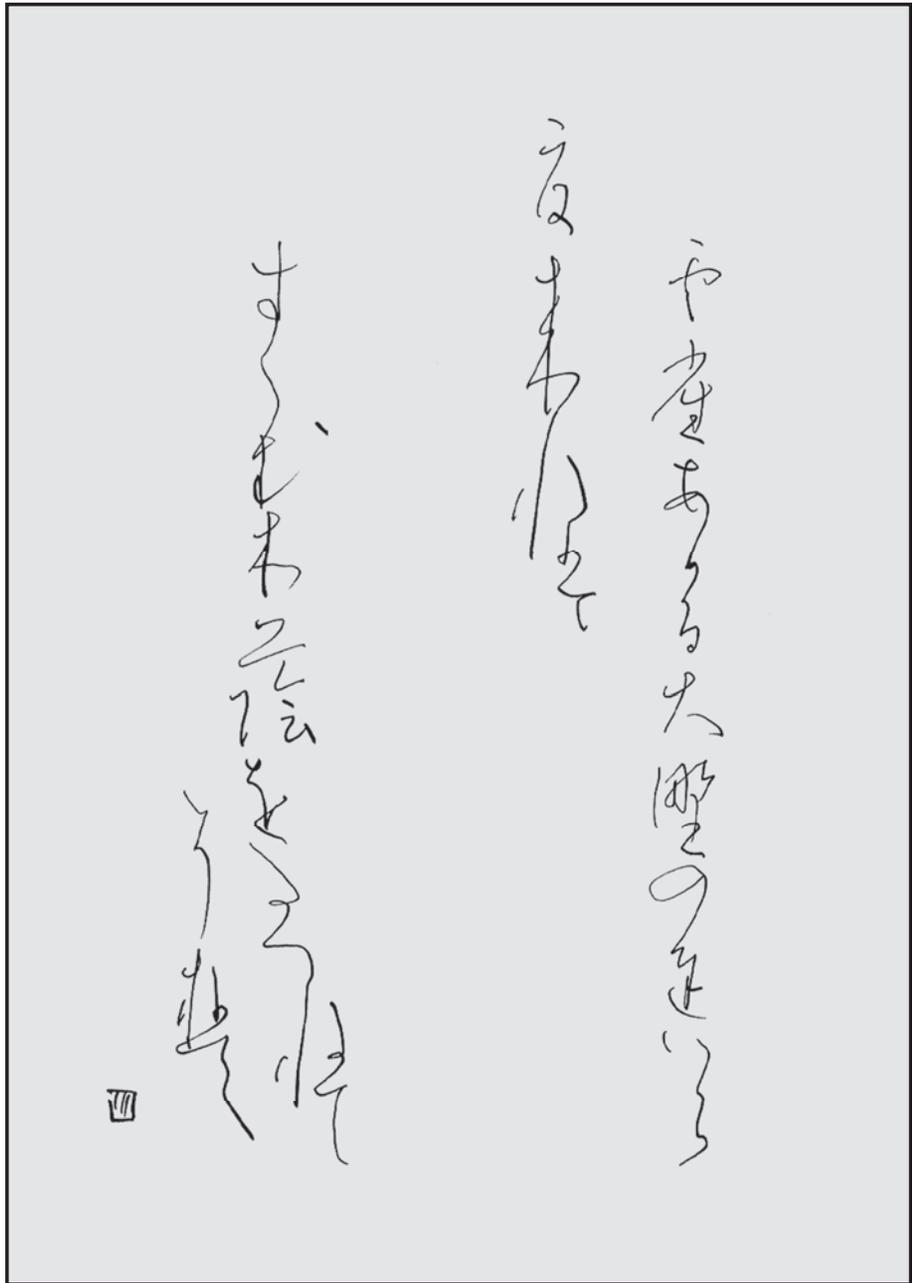
築瀬舟香書

〔古筆参考〕

いちじょうせつしょうしゅう  
一条撰政集



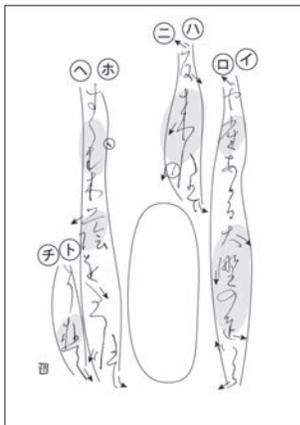
さしうなり奈利介にけれど、かへり利  
 ともせざり佐利ければ、をと  
 としふれば不整ありし人だに多尔みえ見盛  
 なく尔につら支き心は整なほ本この礼れる  
 と那なむいひ利やり多利たり利けれど、かへ可



雲雀可あがる大野の茅原遊八夏来れば遊  
 涼む木蔭をたづねてぞ行く

〔歌意〕春には雲雀ひばりがあがる大野のち  
 がやの原―その大野を夏通ってくる  
 と、暑さに堪えかねて涼しい木蔭がな  
 いかと尋ねて行くことだよ。

〔出典〕山家集(新潮日本古典集成)  
 〔解説〕



- ①と②、①と③、①と④、①と⑤、①と⑥、①と⑦、①と⑧、①と⑨、①と⑩、それぞれ呼応。
- 余白大切。
- 行の中の密の動き大切。
- の位置、↙ 指向性大切。

◆12月課題予告

おのづからおとする人ぞなかりける  
 山めぐりする時雨しぐれならでは

締切り 11月24日(必着)

長女も来年はもう大学受験です。  
高校とは違い卒業後の進路も気になり、本人には相当プレッシャーがかかり、一番苦しい時期でしょう。でももうひと辛抱です。家族全員で助け合い、全力で応援しています。

長女も来年はもう大学受験です。  
高校とは違い卒業後の進路も気になり、本人には相当プレッシャーがかかり、一番苦しい時期でしょう。でももうひと辛抱です。家族全員で助け合い、全力で応援しています。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

お ぐ 郷 すい こう  
尾 郷 翠 光 書

空気中の水蒸気が、0℃以下の  
地面で凍る現象を「霜」という。

鳥 取 県 米 子 市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 11月24日(必着)



準初段から師範まで

新入から1級まで(楷書)

奥村暢之 臨

須田一葉 書

微物不能累所

【出典】集字聖教序(672) 【筆者】王羲之法書より集字

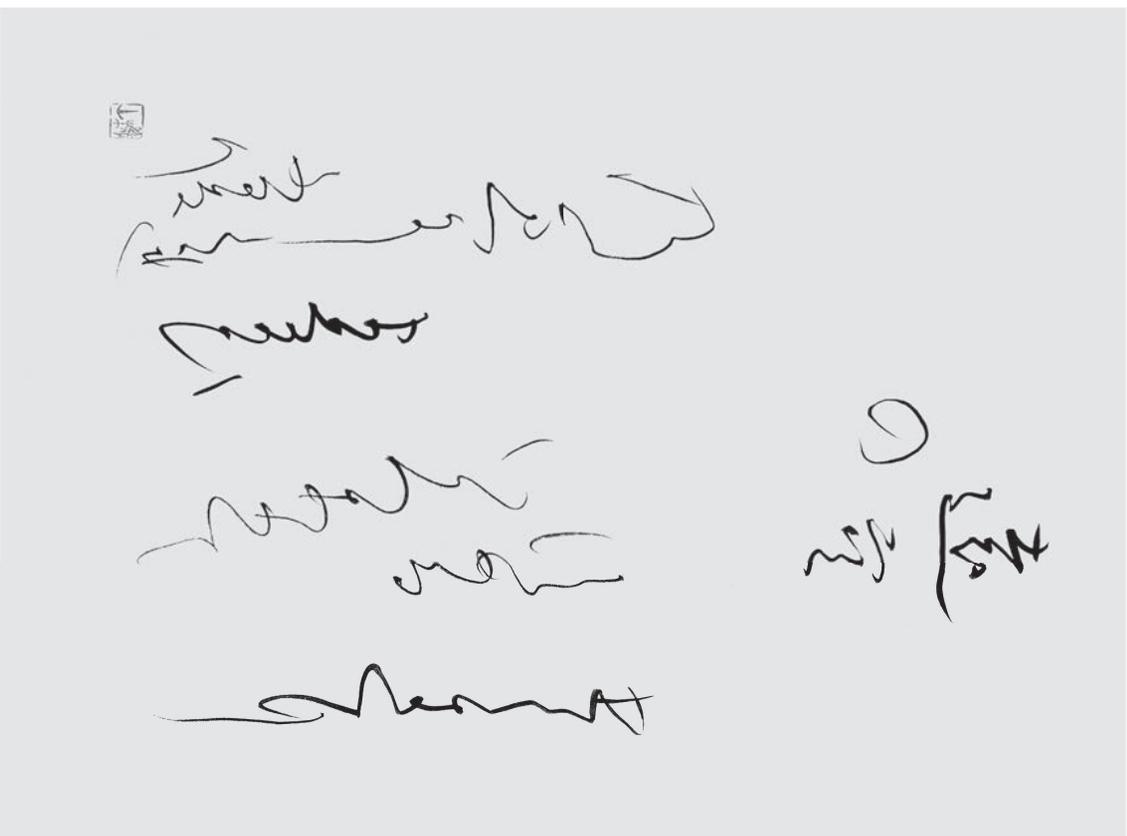
【読み】微物も累わすこと能わず(憑く)所の

【読み】寒風夜霜を催す

【大意】冬も近くなり寒風に夜霜がおりる。

# 一般部毛筆かな課題

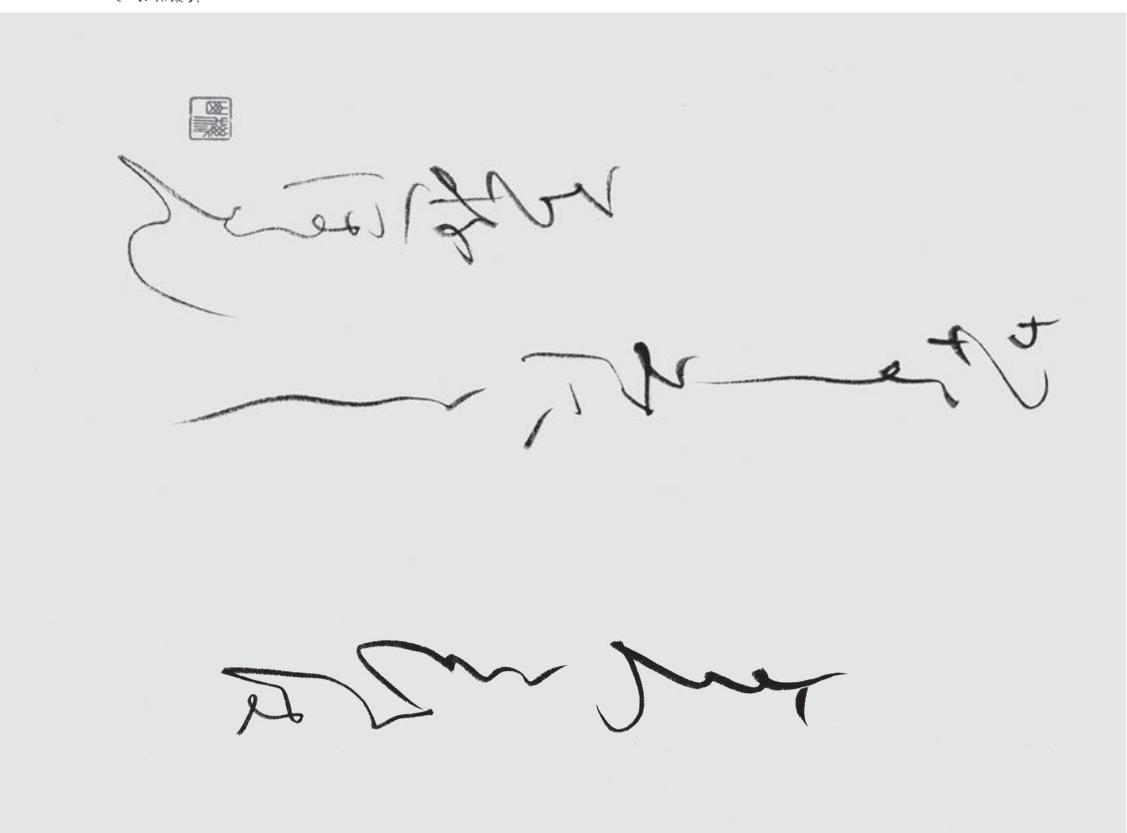
締切り 11月24日(必着)



遠空の低きに澄める色ありて  
 かな 遠空の低きに澄める色ありて  
 まなかひの松にしくれ降るなり

【出典】 吉野秀雄

【歌意】 遠い空の低いところに澄みきった色が見えていて、眼交いの松の木に時雨が降っていることだ。



よろこびはかなしみに似し冬牡丹  
 かな 冬牡丹の姿に共鳴したのである。

【出典】 山口青柳

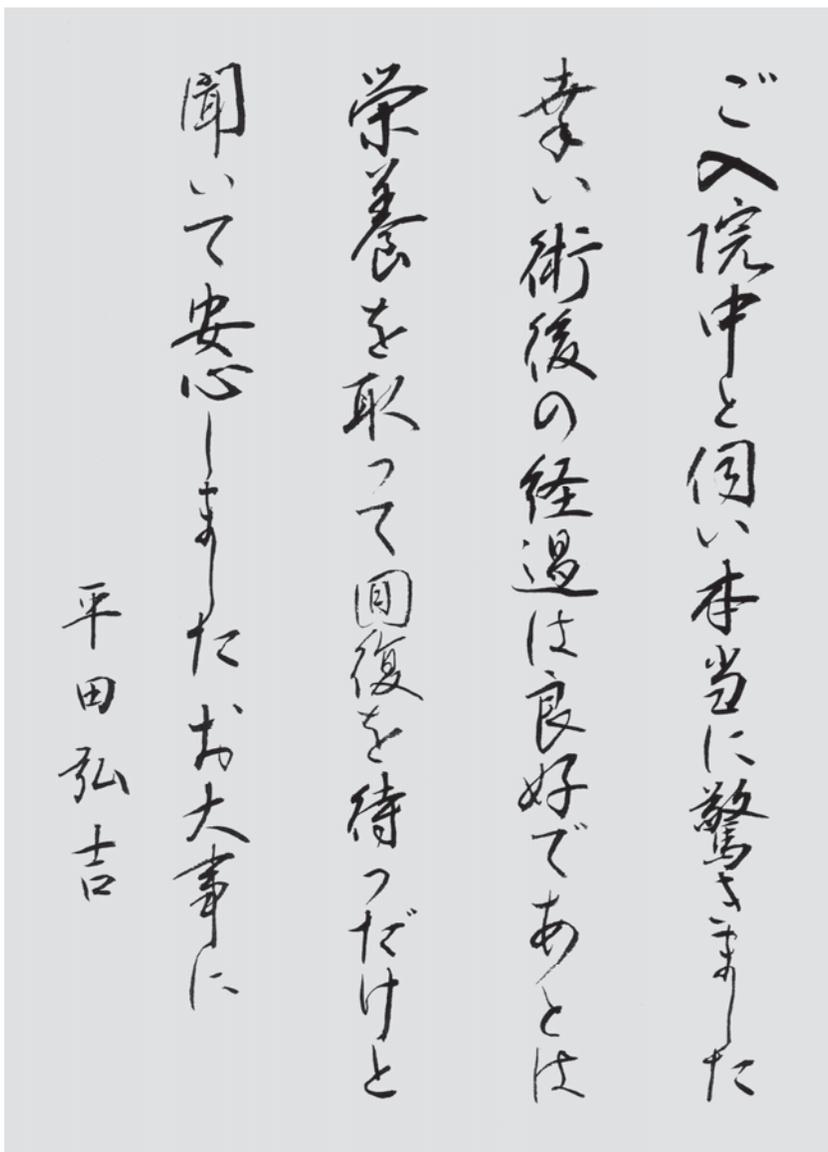
【句意】 何かふとしたことから、作者は喜びも一抹の悲しみに似ていると感じ、寒さに映く冬牡丹の姿に共鳴したのである。

新入から1級まで

浅井機山先生書

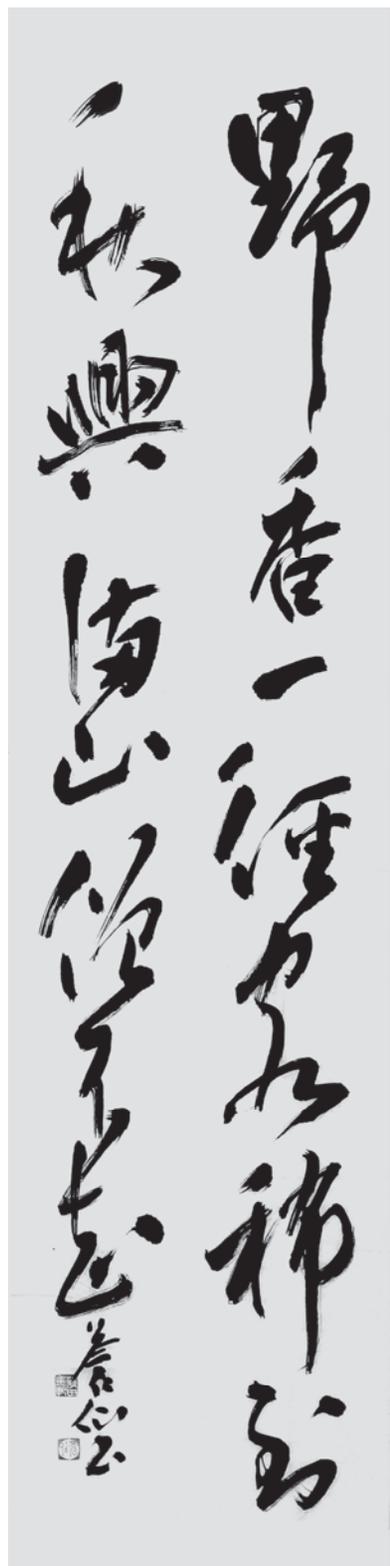
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

書 華 玲 田 樋



締切り 十一月二十四日 (必着) 半切 (一三六 cm × 三五 cm)

萩 田 蒼 仙 書

野 香 一 徑 客 稀 到  
秋 興 滿 山 僧 不 知

〔大意〕野草香る小道の山奥の家には訪れる客も少なく、秋の気配が山にも充満するも道中の僧には好景も無感心か。

初出品の方へ  
支部名・会員番号・  
姓名・毛筆漢字成績  
を、作品左下に必ず  
お書き下さい。

〔条幅解説〕遅速：十四文字の中でどの字を…また一字でも遅速を工夫します。その時、速すぎると軽くなり、遅くゆっくり過ぎると重くなります。これには筆圧が大きく拘わり工夫のいるところ。書きっぷりを見せて頂いて聞くのが早道。

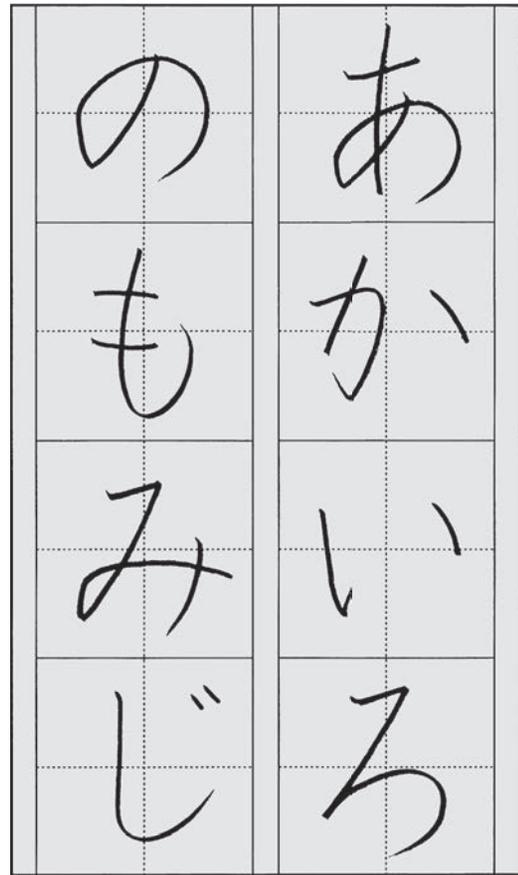
・ご入院中と伺い本当に驚きました  
・辛い術後の経過は良好であとは  
・栄養を取って回復を待つだけと  
聞いて安心しました お大事に  
(ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

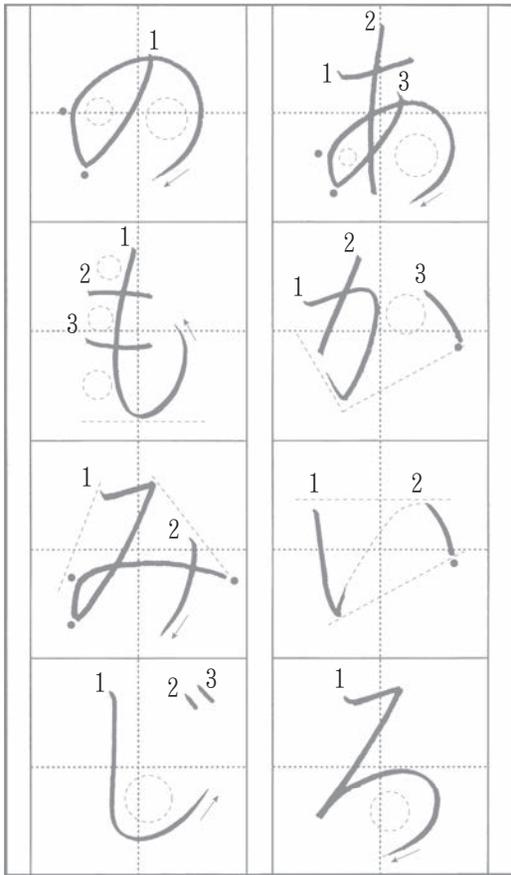
- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

よ  
う  
年



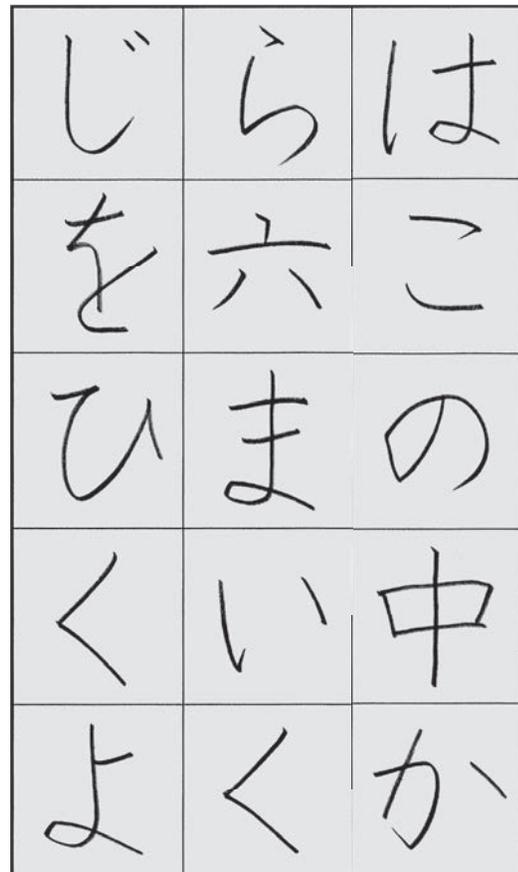
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかき)

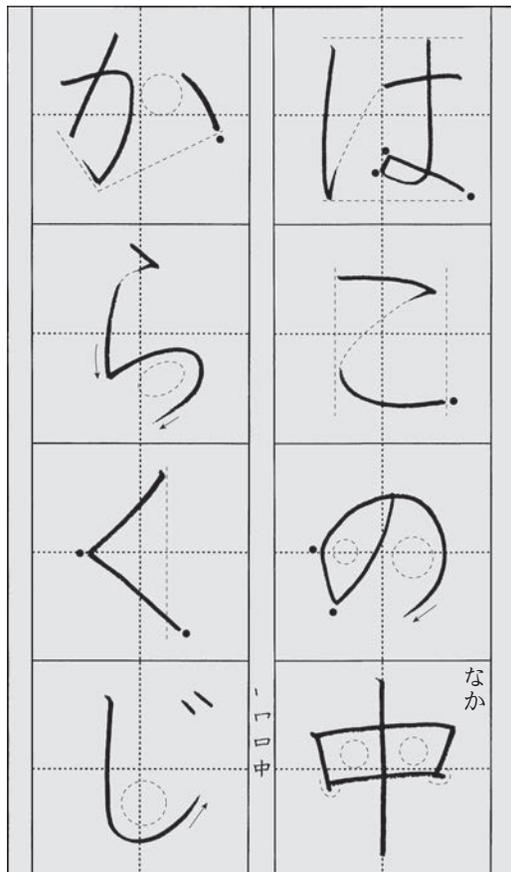
小  
一  
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準  
初  
段  
以  
上

新入〜1級



幼年〜小三年まで  
三宅容玉書

小二年

電	か	水
気	い	の
を	ダ	カ
作	ム	を
る	で	つ

準初段以上

小三年

い	ま	動
つ	馬	物
も	た	園
元	ち	の
気	は	し

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

電	水
気	の
作	カ
る	で

新入〜1級

し	動
ま	物
馬	園
は	の

新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具 自由(黒色に限る)〉

ノ イ 白 白 白	ハク 白	ノ ハ 八
サ サ 苺 苺 菜	サイ 菜	お 百
買 買 買	か 買	や 屋
う		で

新入1級

※八百屋＝単語としてこのように読みます。

ね	で	八
ぎ	白	百
を	菜	屋
買	と	さ
う	玉	ん

小四年

準初段以上

小四年以上

岡嶋桂川書

ノ ハ 合 合 合	ガツ 合	サン 賛
唱 唱 唱	シヨウ 唱	セイ 成
祭 祭 祭	サイ 祭	タ 多
歌 歌 歌	ウタ 歌	スウ 数

解説(よく見て習いましょう)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

が	合	賛
決	唱	成
ま	祭	多
っ	の	数
た	歌	で

小五年

(全員)

〈用具 自由(黒色に限る)〉

海	カイ	将	シヨウ
外	ガイ	来	ライ
留	リュウ	通	ツウ
学	ガク	訳	ヤク

解説(よく見て習いましょう)

外	を	将
留	目	来
学	指	は
す	し	通
る	海	訳

小六年

(全員)

機	た	試
に	服	合
入	を	で
れ	洗	汚
る	濯	れ

中二・三年

(楷書)

菓	と	小
子	牛	麦
を	乳	粉
作	で	と
る	お	卵

中一年

(楷書)

▼小三年以下の課題 お 小 ざわ さん か 華 書

ま	キ	育 <sup>そだ</sup>	庭 <sup>にわ</sup>	お
ん	ク	て	先 <sup>まき</sup>	じ
開 <sup>かい</sup>	の	た	で	い
で	花 <sup>はな</sup>			さ
す	が			ん
				が



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 11月24日 (必着)

習っていない漢字は  
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 むら い じゅん こう 村 井 淳 光 書

実 <sup>じつ</sup>	学 <sup>がく</sup>	自 <sup>じ</sup>	高 <sup>こう</sup>	姉 <sup>あね</sup>
行 <sup>こう</sup>	習 <sup>しゅう</sup>	分 <sup>ぶん</sup>	校 <sup>こう</sup>	は
し	方 <sup>ほう</sup>	に	受 <sup>じゅ</sup>	来 <sup>らい</sup>
て	法 <sup>ほう</sup>	適 <sup>てき</sup>	験 <sup>けん</sup>	年 <sup>ねん</sup>
い	を	した	に	の
る			備 <sup>そな</sup>	
			え	



◎お手本はつけペン使用

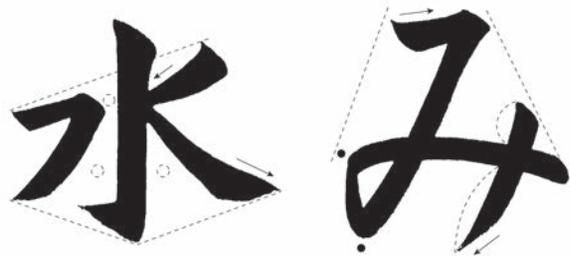
◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





幼年〜小二年  
玉樹小華書





小三、小五年  
水野香竹書

中二・三  
洗服

小六  
留海

濯を

学外

小六〜中二・三年

奥村暢之書

乳

海

服

学

濯

卵

中一  
牛卵

乳と